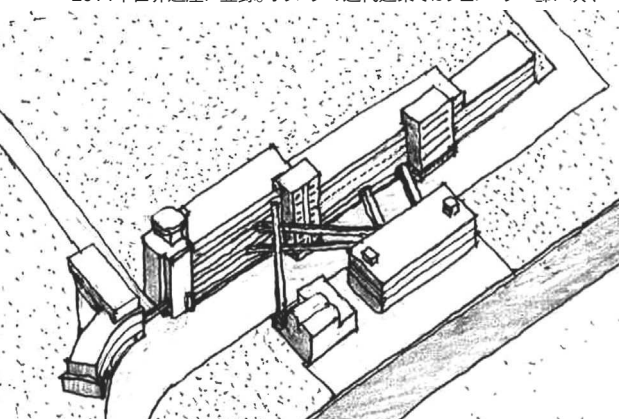


ファン・ネレ工場 1930年 J.A.ブリンクマン+L.C.ファン・デル・フルフト+マルト・シュタム

労働空間の革新



南側アプローチからの外観 工場棟屋上に円形ガラスの談話展望室
2014年世界遺産に登録。オランダの近代建築ではシュレーダー邸に次ぐ



鳥瞰図 後列左から事務棟、工場棟、手前同熱源室、倉庫・中央処理棟



珈琲棟3,4階吹き抜け部分。1995年迄焙煎機室。現在はデザイン事務所



左 手洗いシンクとトイレブース 右 階段室。金属パイプ手摺りが軽快

アムステルダム証券取引所(1903年)を設計し、オランダ近代建築の父と呼ばれるH.P.ベルラーへは「主任建築家の仕事は、ファサードの略図を描くことではなく、空間の創造であり、空間の外被は壁面によって創られる」と述べている。訪米してF.L.ライトの初期の建築を実見し、その建築を高く評価して若い建築家を鼓舞した。社会主義者だったからか、特に、後に壊されたラーキン社ビル(1910年)に感銘し、フラットな煉瓦壁面で構成され、天空光が降り注ぐ事務労働の空間を称賛した。

その感化を受けて、第1次世界大戦で中立国であったオランダでは表現主義が隆盛し、デ・ステイルが結成されて理論をリードし、戦後、周辺国に影響を与えた。

大戦を経た欧州諸国の現実は一層厳しく、やがて建築を審美的造形物として捉えることを否定し、社会性、科学性を重んじる機能主義が台頭してCIAM結成に繋がる。ファン・ネレ工場の設計者3人はこの動きの支持推進者である。

社主のキース・ファン・デル・レーウは経営より学芸一般に関心があり、精神性を尊ぶ神智学者であった。会社は煙草と珈琲、紅茶を扱い、工場はその精製、焙煎、包装作業場であり、理想的な労働作業空間の創造が目指された。

敷地は、ロッテルダムの郊外を巡る運河に東側で接し、南側からは鉄道路線の引き込み可能で、材料、商品の搬出入に好都合の場所が選ばれた。

計画は、運河に沿って倉庫と材料の中央処理所や熱源室と電気室を置き、次に広い運搬道路を確保し、それを挟み事務棟と長大な工場棟を配置している。入口に建つ事務棟は人を迎えるように湾曲し、1階は吹き抜けて中2階を備える開放的な事務室、続く工場棟は長さ200mを越え、煙草棟(8階)、珈琲棟(6階)、紅茶棟(3階)が連なる。

まず、作業空間と人や物の移動・運搬経路の配置が明快だ。縦動線の階段、昇降機路と手洗いスペースをコアとして作業空間の外周に配置し、内部の改変自由性を確保している。RC造、奥行き3スパンで19m、柱は八角形断面の無梁版構造。天井は張らず、床下3.5m、腰が金属パネルのカーテンウォールが全体を包み内部は明るい。仕切りなく広がる作業空間に、ユニバーサルスペースを想起する。倉庫・中央処理棟と工場棟は必要階と道路上空で斜行ブリッジやコンベアにより即物的に直結している。

衛生管理も徹底している。各棟入口には更衣室とタイル貼りの清潔なトイレ・手洗い室が付属し、階段は交代勤務者が接しないよう同一シャフト内に上り下り別で並ぶ。

大規模で軽快、作業空間を晴明に革新し、銀灰色に輝く「労働者のカテドラル」と評された工場建築が実現した。